

松平のみんなが大活躍！

松平交流館祭と

わくわく事業



松平交流館祭

「あなたとわたし みんなでつなく 学びの わ」を
テーマに、日ごろの交流館活動の成果発表と
まちづくり活動の促進を目的として開催されます！

毎年約3,500人が来場。
目玉は、ロビーに現れる日本庭園！
たった1日だけの贅沢な演出を
多くの人が楽しみにしています！





Wakuwaku 01

わくわくフェスタ

松平地区の住民が世代や地域を超え楽しく集い、
学ぶことができる大きなイベントです。

毎年11月にフォレストヒルズで開催しています。(令和2年度は中止)
棒の手、和太鼓の伝統芸能の発表
園児によるリレー、住民参加の玉入れ、綱引き

中学生は、吹奏楽演奏やボランティアとして
大活躍! 地域の中心的イベントの1つです。



Wakuwaku 02

巴川金魚花火

大正から昭和30年ごろまで行われていた
金魚花火を復活した花火大会。
金魚花火、打ち上げ花火
手筒花火を見ることができます。

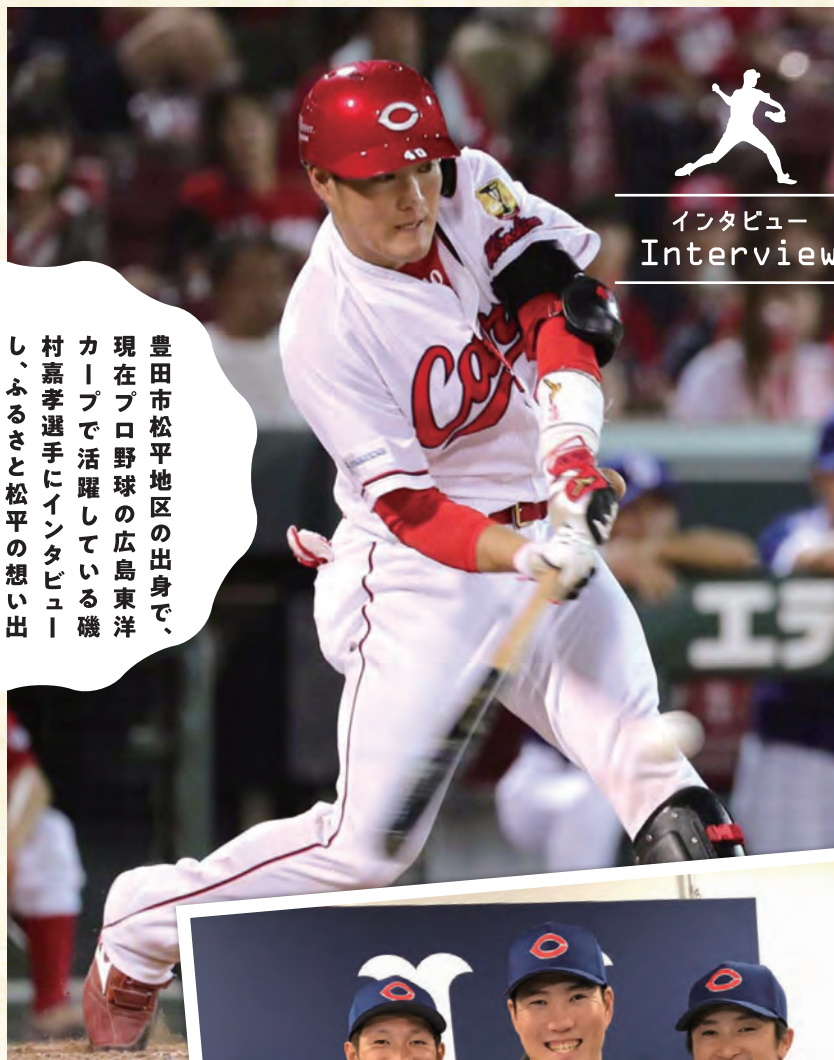
花火大会の前には、雲助道中練り歩きや、
松平わ太鼓等の芸能大会、出店やバザーもあり
大勢の人でにぎわい
地域の活性に貢献しています!



これまでのわくわく事業一覧は104ページをご覧ください



インタビュー
Interview



豊田市松平地区の出身で、現在プロ野球の広島東洋カープで活躍している磯村嘉孝選手にインタビューし、ふるさと松平の思い出や、その後の高校野球、プロ野球の話伺った。
(2019年12月インタビュー)



(左)大瀬良大地投手

いそむら

よしたか

磯村 嘉孝

1992年11月1日生まれ。豊田市松平地区巴町出身。祖父、父、叔父、兄も甲子園に出場した野球一族。父と兄は社会人野球のトヨタ自動車でプレーした。

岩倉小学校2年の時に松平ニューボーイズで野球を始め、松平中学校時代は豊田シニアでプレーした。中京大中京高校時代は春・夏の甲子園で大活躍。2年生の春は5番レフトで打率5割を記録しチームをベスト8に導いた。夏には正捕手として一学年上の堂林選手(現在は広島カープでチームメイト)とバッテリーを組み、5番で打率3割5分、2本塁打を記録して同校7度目の全国優勝に貢献した。3年生では主将で4番。春はベスト8、夏は2回戦で敗れた。

プロ野球には2010年、広島東洋カープにドラフト5位指名で入団。捕手。2012年に10代でスタメン出場を果たした。2017年に結婚。



(左)西川龍馬内野手

(右)上本崇司内野手



2019年は65試合に出場して打率は2割7分8厘。特にペナントレース後半に大活躍されましたね。自己評価するとどれくらいですか。

磯村選手(以下磯と表記) 3割には届いていないので70点くらいでしょうか。

少年時代の磯村選手はどのプロ野球チームのファンでしたか。

磯 もちろん地元の中日ドラゴンズですよ。

憧れの選手はいましたか。

磯 特に憧れの選手はいませんでした。が、福留さんとか、関川さんとか、イ・ジョンボムさんとか、ドラゴンズ全体が大好きでした。

プロ野球選手になろうと思ったのはいつ頃でしょうか。

磯 高校に入学してからです。本気でプロを目指そうと思ったのは高校2年の時かな。

中京大中京高校では野球部のキャプテンを務められましたね。チームを引っ張っていくために意識したことや、気をつけていたことはありますか。

磯 僕はガミガミ言うのは嫌いなので、基本的には自主性に任せていました。キャプテンの僕が進んでやればみんなもやらざるを得ないですから、率先してやっていましたね。

——プロ野球入りは広島カープのドラフト5位指名でしたね。あの当時、意中の球団はあったのでしょうか。

磯 それはいいです。プロ入りできるかどうかのレベルでしたので、どこかのチームが指名してくればという思いでドラフト会議を待っていました。プロ野球選手になるのが大きな目標でしたので、とても嬉しかったです。

——広島カープでは、中京大中京高校でバッテリーを組んだ一年先輩の堂林翔太選手とチームメイトになりましたね。

磯 堂林さんがカープに入ったお陰でスカウトが僕のことを見てくれていて、それがきっかけでカープに指名してもらえたと思っています。

——プロ野球選手は身体が資本ですね。体調管理ではどんなことに気をつけていますか。



磯 夏場にどうしても体重が減ってしまうので、意識して食べたり、水分を取ったりして、体重を減らさないよう心がけています。

——身長178cm、体重82kgというのですが、もっと大きく見えますね。

磯 体重はだいぶ増えて今は92kgあります。

——いま住んでいる広島のまちはどんな所ですか。

磯 大きなビルの建ち並ぶような都会ではありません。原爆で一度破壊されていることもあって町並みがとても綺麗で静かなまちです。原爆ドームや平和公園、厳島神社などがあるので観光客や外国人が多いですね。

2010.8月
中京大中京対早稲田実業戦



2009 甲子園優勝
市役所表敬訪問



1996
4歳の磯村選手
松平マラソンにて



1996~97
兄弟と一緒に



——ふるさと松平を懐かしく感じることもあると思います。岩倉小学校時代の特別な思い出はありませんか。

磯 集団登校していたことが懐かしいですね。広島の小学生はバラバラに登校していますから、そういう姿を見ると思い出します。あと、朝早く登校してみんなでフットサルをやっていたこともいい思い出です。外で遊ぶのが大好きだったのでね。同学年は100人ちよつとだったと思います。あと、校長先生がよく小学校前の横断歩道で旗を持って待っていてくれたことをよく覚えていています。

——松平中学校時代の思い出はどうですか。

磯 昼休みに友人たちとよくサッカーをしていました。担任だった森山先生にはとてもお世話になりました。

——同窓会は開いていますか。

磯 毎年誘ってもらっていますが、年末年始くらいしか帰って来れないので出席できずにいます。

——故郷の松平で特に気に入っている場所がありますか。



1999
松平大和幼稚園卒園



磯 坂道が多いので体カトレーニングになりましたね。巴川にはよく飛び込みに行きましたよ。みんなと自転車だね。

——松平の後輩たちに何か言葉はありますか。

磯 松平には自然が多くて遊ぶ所がいっぱいある。帰って来るたびに「いいなあ」と思います。小学生、中学生のみんなには今を大切に過ごしてもらいたいですね。

——磯村選手のご実家は野球一家ですよ。プレー等について何か言われることはありますか。

磯 特に言われたことはな



2004 小学校6年生の運動会

いですが、でも、父や母がいなかったら野球選手になつてなかったし、こうして元気に生きていることも無かつたかもしれませぬ。両親、家族にはすごく感謝しています。

——自分を戒めるためや励ますための座右の銘はありますか。

磯 座右の銘ではありませんが、「ありがとう」という言葉を大切にしています。この気持ちが無いと人間的に進歩しないと思っています。恥ずかしくてなかなか口に出せないこともありませんが、「ありがとう」と言う



だけで、言ってもらった人は嬉しいと思う。僕自身もそうですから。

——磯村選手の人柄が伺えますね。優しさを感じます。

磯 両親のお陰です。

——はまっている趣味はありますか。

磯 息抜きとしてはおいしいご飯を食べに行くことですね。僕は遠征でいろいろな地方に行けるので、ご当

地料理を食べたり、地域の有名店に足を運んだりして気分転換しています。

——広島でお薦めの美味しい食べ物は何がありますか。

磯 やはりお好み焼きですね。広島焼きです。広島に行く前は具を混ぜて焼く関西風のお好み焼きが好きでしたが、今では広島焼きの方が好きです。

——いま松平は変貌しつつあります。隣の下山地区にトヨタ自動車のテストコースができることで松平は通過道路になってしまふ。国道301号のバイパス工事をやっていますし、松平中学校の裏ではドームと体育館も造っています。故郷の松平に何か期待していることはありますか。

磯 僕は自然が大好きなので、松平の自然を大切にしたいですね。それから、下山地区にトヨタのテストコースが造られているとのことですので、松平の名も上手く全国に知ってもらえると嬉しいですね。

——松平は徳川家の元々の先祖の発祥の地ですからね。

磯 松平に生まれ育ったことを誇りに思っています。もっともつと松平を知ってもらいたいですね。



——観光大使はいかがですか。

磯 それは僕には荷が重いです…。もっといい人がいますよ。

——今後も広島カープでのご活躍を期待しています。ありがとうございます。



高校時代



高校時代



聞き手 酒井 邦雄
会場 ホテル フォレスト



— 松平で暮らす —

Uターン・Iターン 移住者インタビュー

松平の豊かな自然
あたたかな人々との暮らしを満喫しながら
積極的にさまざまな地域活動に取り組む
若者たちにインタビューしました。



Uターン 安藤さんファミリー



「あまり知られていないことですが、松平地区は土がとても良いんです。畑の獣害がひどくても離れたくないですね」と話すのは、滝脇町で「くらら農園」を営む安藤源さん。さち子さんとの結婚を機にUターン就農して13年になる。3男児を育てるファミリーだ。

源さんは中垣内町の出身。三重県の農業高校から沖縄県の大学へ進んだ。卒業後はベンチャー企業で働いたものの、農業へ思いが高まり1年半で退社。さち子さんと結婚して松平へ戻ってきた。県の農業大学



校で1年研修したあと取り組み始めたのは「七草」と「ナス」の2本柱。一日12〜15時間も働く生活は心身ともに苦しかったが、徐々に改善して3年目頃から軌道にのつてきた。5年目にはJAの七草部会長を任されている。

頑張っている姿をみて応援する人も増え、高齢農家から農地を任せられるようにもなつて、耕作放棄地解消の地域貢献にもつながっている。管理する農地が増えた今は、柱の一つだったナスを管理しやすいトウモロコシに切り替えた。その味がとても好評だ。最近は有害鳥獣の駆除員としても地域に貢献している。

妻のさち子さんは神奈川県横須賀市の出身で、沖縄に移り住んで社会福祉の仕事をしてきた。源さんとはハンセン病療養所のボランティアで出会ったそうだ。

結婚して見知らぬ豊田市へきてからは、子育てをしながらファシリテーターの仕事を探してきたが、人手が足りず現状打破に悩んでいた源さんと一緒に農業をやることに。人と話さず黙々と農作業をするのは苦手だと思っていたが、やってみると意外に自分に合っていたそうだ。自家用野菜にも取り組んで自給自足的な暮らしも目指している。

さち子さんは子どもの健全育成の市民活動や親子劇場の役員、滝脇小学校の読み聞かせボランティアなどの活動も行っている。松平地区の定住委員にも選ばれ、小規模校の特性を生かして小学校を存続させたい気持ちも強まっている。

ターン

白井さんファミリー



田んぼサークルは手植え、無農薬、手刈り、天日干しで楽しんでいる。



夫婦で改修した家で楽しく暮らしている。

白井さんファミリーが名古屋から豊松町の空き家にて移住して来たのは2014年。自分たちが実感している田舎暮らしの豊かさを、センス良く魅力的に発信し、新たな移住につなげている。

ご主人の康文さんは名古屋市の出身で、お二人とも一級建築士。建築設計事務所「きとか」を営んでいる。豊かで美しい暮らしを伝えられる家に住みたい、緑ゆたかな場所で子育てをしたいという想いを持ち、それまで住んでいた名古屋から移り住んだ。移住先を3年ほど探していて、豊松町のこの家に自然と引き寄せられた感じだったそうだ。仕事で名古屋へ行くことも多いので松平ICが近いのも好都合だった。

家の改装は大工さんとご夫婦で1年ほどかけてじっくり行なった。持続可能な家づくりを自ら実践しようとして、落とした土壁も再利用。足りない竹は近所の山で調達したそうだ。

都会暮らしだったお二人にとって豊松町での暮らし

は素敵なことだらけ。季節ごとに感動できる景色も、採れたて野菜の美味しさも、何でも作れるお爺さんが居ることも、震災が起きても何とかなりそうな安心感も、すべてがお気に入りだ。で、お得感いっぱい。

そんな豊かな田舎暮らしの魅力が友人知人たちにも伝えようと、周囲の自然や農地をいかしたワークショップやサークルも開いている。しめ縄や門松づくり、竹を使った流しそうめん、手作業の米づくりなど都会暮らしでは思いもしないことばかりだ。こうして白井さん夫妻自身が楽しんでいる暮らしや活動が、都市と山村をつなぎ、新たな交流人口やターン移住を生んでいる。

昨年度からは松平地区定住委員会の副委員長にも選ばれた。康文さんは「田舎で生まれ育った人はこの魅力に気づいていないだけです。それに気づいて地域が誇りを持てば都会へ出て行く若者も減ると思うし、地域が楽しくなればUターンで戻ってくる人もきっと増えますよ」と楽しそうに話している。

Uターン 青木崇晃さん



北設楽郡東栄町を拠点とする邦楽集団「志多ら」に12年間在籍し、2019年に独立して地元の豊松町にUターンしたプロ和太鼓奏者の青木崇晃さん(32)。ソロ活動をしながら、生まれ育った地域を盛り上げていこうとしている。

青木さんが和太鼓を始めたのは小学5年生の時。「松平わ太鼓」の15周年公演に心を揺さぶられて入会し、松平高校時代には学校の和太鼓部でも活動した。卒業後の人生を決める時には就職も考えたが、「好きなことをやらなければ後悔する」とプロ和太鼓奏者の道を歩み始めた。

入団した志多らでの生活は朝から晩まで和太鼓だけ。修行のような毎日だったという。全国各地での公演や海外遠征も経験し、大太鼓のソロパフォーマンスも任されるようになった。そうした12年間の活動を通して、相手を思いやる心の大切さや、武道にも通じる和太鼓の精神性を学んできたという。

志多らで地域に根ざした活動をしていくこともあり、地元に戻った青木さんは豊松町や松平地区を盛り上げたい気持ちが強くなった。地元を離れていたからこそ、地域住民の気持ちも、Uターン移住者の気持ちも分かる。「それが僕の強みです。両者の仲介役をやっていたい」と自分の役割も定まっている。

若者が外へ出て行ってしまいう現状をみて、青木さんは「地域に住み続けながら仕事を求められるような仕組みを創っていききたい」とも考えている。そのために、手に職を持った組織を立ち上げたい構想も。人それぞれ得意分野が違うのでより多くの人とつながっていきたいそうだ。

青木さんの得意分野はもちろん和太鼓。和太鼓の世界の入口をもっと広げて、子ども達が自然と入って来られる環境づくりもしたいという。豊松小学校が2年後に150周年を迎える。そこを目標に子どももの和太鼓チームを立ち上げたい思いもあるそうだ。





ターン
飯沼さんファミリー

薪ストーブのある暮らしも、1ターン移住を選択した理由の一つだった。

飯沼さんファミリーは平成22年に名古屋市内からの1ターンで豊松町に住み始めた。物件を紹介されて見に来たとき、近所のお婆さんが「ここに住んでくれたら私が面倒みてあげるからね」と声を掛けてくれ、そのあたたかい言葉で決断した。

ご主人の貴さんは大分県日田市出身。18歳のとき就職で豊田市へ来た。工場が動き続けてオン・オフの無いまちが嫌で名古屋から通勤するようになり、大好きな大須のまちで「大須大道町人祭」のボランティアも務めた。スタッフ約100人のまとめ役も任せられ、そのころ妻の絵美さんと出会ったそうだ。

転職、結婚、子どもの誕生、豊松町への移住と20代後半で生活が大きく変わり、32歳のとき一大決心して農業の道へ。実家が兼業農家だったので農業には親しみもあった。

上郷地区の大手農家で米・麦・大豆を中心に農業全般を学び、8年間勤めて令和2年に独立。上郷地区で高齢農家の田んぼを

任されている他、地元でも新たに発足した集落営農組合に携わりながら米作りをしている。

地域の活動にも積極的だ。地元を離れていく若者がいずれ戻りたくなるようにと、仲間と一緒に「豊松お野人会」を発足。豊かな自然のなかで子どもたちにアウトドア遊びを教えて郷土愛を育んでいる。また、松平地域会議の委員にも選ばれ、都市住民が「松平に住みたい！」と思って貰えるよう、移住定住の先進地にも学びながら取り組んでいる。

貴さんは「松平は人の心があたたかくて外から移り住みやすい地域ですが、外へ発信する力が弱いと思います。そこを僕たちが担いたいな」と話してくれた。絵美さんも地域の魅力アップのため、コミュニティスペースの様な場を開けたらと考えている。子どもたちがおこづかいを持って集まれるような、また、畑で余った野菜やお手製の工芸品なども置いていこうかな、そんな場が夢だ。



地域の子どもたちが未来につなげたい

大好きな松平

地域の子どもたちから寄せられた、
ふるさと松平のスローガン・絵・作文もご紹介。
そこには松平への愛がいっぱい詰まっています。

スローガン部門 最優秀賞



私がこのスローガンを通じて伝えたいことは、これから平和な未来が続いていけばいいということです。今の世の中は少しだけ楽しみが減ってしまったと思うので、これから楽しみを取りもどすためにも平和な未来になればいいかと願っています。そして松平地区のみなさんの心が1つになり、これまで以上に松平が笑顔であふれる楽しい町になってほしいと思っています。松平地区のみなさん全員が松平に住んでいてよかったなと思えるような町にできるよう、私も協力していきたいと思いました。



松平中学校 2年
古井 望琴 さん



絵画部門 最優秀賞

ぼくが見た天下祭

冬に裸で参加する人たちの根性と熱意を伝えたくて、天下祭を題材にしました。社会の授業で天下祭のことを学び、地域の人々の思いがたくさん詰まっていることを知りました。参加する人が気を出してやっているときがすごいと思います。工夫したところは、熱意が伝わるようにたくさんの人を描いたり、玉を持っている人の表情を工夫したり、体を大きく描いたりして、迫力ができるように表現したことです。



滝脇小 5年
加藤 聖偉くん



九久平小 6年
七原 静々良さん

絵画部門 最優秀賞

松平東照宮

東照宮は思い出の多い場所です。自分や弟がお宮まいりや七五三で行ったお宮だからです。今回私は東照宮の雰囲気を出すために木の色合いを何色も使って塗り、立体感をだしました。絵の具の色はそのまま使わず他の色を少し混ぜて使うことを意識しました。私は絵を描くことが好きなのでとても楽しんで描くことができました。今年は新型コロナウイルスの影響があり狛犬がマスクをしていて可愛らしいなと思いました。

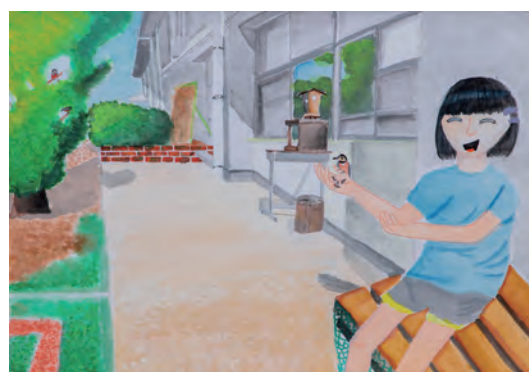


絵画部門 松平地区区長会長賞

楽しい金魚花火

わたしがこの絵をかこうと思ったのは、金魚まつりが楽しくて心にのこっていたからです。金魚まつりは、金魚すくいやうちあげ花火、お店がたくさんあってとても楽しいです。友だちといっしょに買いものをしたり、やきそばを食べたりしたことをかきました。かくときにむずかしかったのは花火です。きれいな形にかこうとがんばりました。お店をたくさんかいておまつりのようすをつたえられてよかったです。

岩倉小 2年 澁谷 優花さん



絵画部門 松平観光協会会長賞

ヤマガラとのふれあい

わたしは作品に、鳥にえさをあげている場面を描きました。理由は、野生の鳥にえさをあげられる小学校は少ないと思ったからです。自然が周りにあってふれあいができてすごいと思いました。前の校長先生も今の校長先生もえさをあげていました。わたしが卒業しても鳥とのふれあいがあればいいと思います。

豊松小 6年 立元 ひよりさん



絵画部門 優秀賞

おいしいトウモロコシ

ぼくのお父さんと、お母さんはトウモロコシを作っています。あまくて、シャキシャキしていてとってもおいしい自まんのトウモロコシです。そのトウモロコシを大好きなお兄ちゃんと弟と食べている絵をかきました。上手にかけるか不安だったけど、トウモロコシのおいしさが伝わるように一粒一粒ていねいにぬりました。ぼくも大きくなったらおいしいトウモロコシを作れたらいいと思っています。

滝脇小 4年 安藤 恵那くん



絵画部門 優秀賞

六所神社のぶたいと紅葉

わたしが、六所神社をえらんだ理由は、家の近くで一番紅葉がきれいだからです。六所神社で自慢できる場所は、大きなスギの木です。六所神社のぶたいは、広いので気に入っています。友だちともよく遊びます。この作品は、光のかげんや方向を工夫しました。難しかったところは、屋根のこけの感じを出すことです。木の立体感が気に入っています。



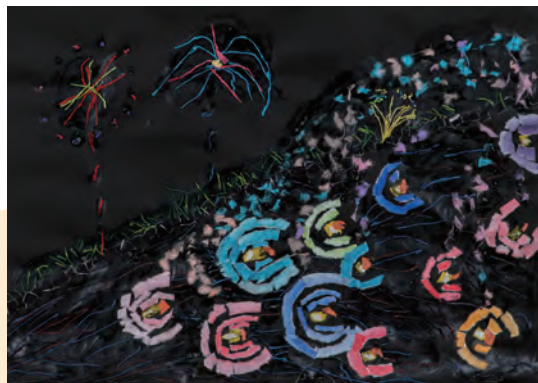
豊松小 3年 浦野 佐奈さん



大好きな松平

絵画部門 優秀賞

金魚花火



初めて金魚花火を見た時、花火が川の中を泳いでいることにとてもおどろきました。金魚花火は年に1回あるおまつりで、その時に親友と会えるとてもうれしい一日です。むずかしいと思ったところは2つあります。1つ目は金魚花火が泳ぐはものところ。手でちぎって丸いはもんを作るのが大変でした。2つ目は紙をねじって全体の太さをそろえるところ。気に入っているところは金魚花火が泳ぐような表現ができたところ。

九久平小 3年 黒柳 ひなたさん

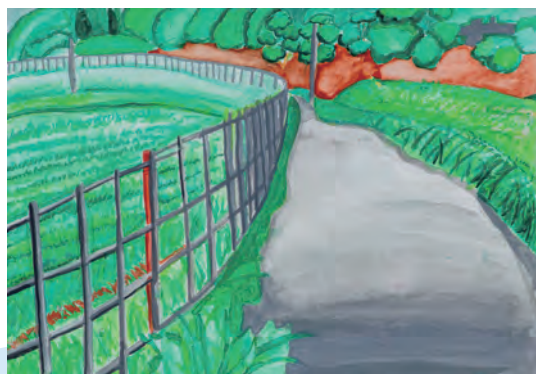
絵画部門 優秀賞

思い出の田んぼ



私が描いた風景は、お父さんの田んぼと後ろの自然豊かな森です。この田んぼは、毎年お米づくりに使っています。家族みんなで田植えから稲刈りまで手伝っています。できたばかりのお米はかくべつにおいしいです。このように、小さいころからの思い出がある田んぼをうまくかけるようにがんばりました。

幸海小 6年 佐藤 穂波さん



絵画部門 優秀賞

思い出の道

この絵を描いた理由は、小さいころからよく散歩をしていた思い出の道だからです。私は、2才のころから、お婆ちゃんとよく散歩に行っていました。小さいころは三輪車、5才くらいからは自転車で行っていました。今でもよく散歩をしています。農道なので、車がほとんど通らず安心して歩くことができます。近くに川があり、自分の家の田んぼがあるので、とても楽しい道です。



幸海小 6年
近藤 純子さん



絵画部門 優秀賞

松平東照宮

私が松平東照宮をかけた理由は、松平東照宮を見た時にとりいが、「とてもりっぱだな」と思ったからです。それを見た時「このとりいは、ぜったいにかきたいな。」と思いました。だから一番工夫したところは、とりいです。私が自分の絵の中で気に入っている所は、とりいと木です。理由は、とりいはとてもかっこよくりっぱにかけたからです。木はいろいろな色できれいにかけたからです。



岩倉小 4年
野末 彩葉さん

作文部門 最優秀賞

明日また、同じ景色を

私は3歳の春に松平地区へと引っ越してきました。幼き故に薄ぼんやりとした記憶しか残っていませんが、鮮やかな緑の中に散る桜の淡い色が、とてもきれいだと感じたことを覚えてます。年を重ねるにつれ私の世界は広がっていき、やがて松平の外の世界についても学んでいきました。そして外の世界を知る度に、松平の素晴らしさを何度も実感し直します。松平には美しい自然だけでなく、歴史があり人の輪がありました。

松平の自然の美しさは、ここに住む人々の努力によるものです。環境問題は、今や世界的な課題となっています。森林が破壊され砂漠化が進み、緑は失われていく一方です。しかし松平では一人一人が自らの住む地域に親しみを持ち、環境を保護するために活動しています。定期的に行う環境美化やボランティア活動、一つの小さな積み重ねが、現在の松平地区を形作っているのだと思います。地球にしてみれば小さな島国の小さな地域のことなど、意識の端を掠めることさえしていないのかもしれませんが、それでも私は、自分の手の届く範囲だけでも自然を守っていききたいと思っています。

私は一人一人の行う小さな行動こそが、自然を守っていくことに繋がると考えています。例えば、「自然の

環境に配慮した製品を選ぶ」「ゴミを分別し資源を有効に利用する」といったものです。日頃からメディアなどで耳にタコができるほどよく聞く言葉ですが、だからこそ効果が見込めるものなのだと思います。しかし、それを実践するのがたった一人だけだったのならば、焼け石に水でしかありません。多くの人が協力して初めて効果が発揮されるのです。私はそれを実行するために行動を起こし、生徒会執行部員となって、学校、ひいては地域へと貢献したいと考えています。具体的には、地域行事の手伝いや環境美化などを行っている「つくし隊」の活性化、そして感謝の心を形で示すため、ステッカーやシールの配布なども提案したいです。その他にも、地域の方との交流を深めるため共に写真を撮らせて頂き、掲示板などに掲載したいと思っています。

私はこの松平地区が大好きです。父も祖父も祖母も、私の知らないご先祖様も、一生をこの地で過ごしてきました。私にとっても、幼い頃から歩いてきたこの大地は、私の人生を形成する上で欠かすことのできない大切な一部となっています。だから私は、この美しさをいつまでも保っていききたいのです。自然というのは、私たちが思っている以上に脆く儂い存在です。恐らくこの均衡が崩れれば、一瞬にして緑は消え去り、元の姿を取り戻すことはできなくなります。そのようなことを絶対に起こさないために、私は自分にできることを精一杯取り組んでいきます。

ここに記した私の声は、とても小さく、有象無象の

文字の羅列に埋もれていくことでしよう。それでも私はこの声、川の清流のように広がり、誰かに届くことを信じています。古より脈々と受け継がれてきた松平の自然と伝統は、簡単に絶やして良いものではありません。守り抜き、次代へと繋げて行かなければならないものです。明日も明後日も、同じ景色を見るために。来年の春、緑の中に散る桜色を見るために。百年後の子孫に愛される松平を作るために。私は私にできる小さなことを、少しずつ積み重ねていきます。

私はこの作文をかいたことでより一層松平のすばらしさを感じることができました。小さな頃から自然とふれ合いながら育ってきました。今ここで普通と感じてしまっている美しい自然も、地域の方々の日々保ち続けた努力の賜物だと思います。そして、私も私にできることに精一杯取り組み、いつまでもこの松平の自然の美しさを守り続けていきたいです。また自然に囲まれ笑顔が絶えず、心の落ち着く、そんな松平を未来に伝えていきたいです。



松平中学校 2年 伊藤 千紘 さん

作文部門 最優秀賞

みんなのふるさと松平

私たちが暮らす町、松平は、今年豊田市と合併して50周年を迎えました。松平地区は、豊田市南部、旧東加茂郡松平町に位置し、昭和45年4月1日に豊田市と編入合併しました。当時の人口は6635人でしたが、今は、約9500人まで増加しました。徳川家発祥の松平には、松平氏遺跡(国指定遺跡)をはじめとして、多くの遺跡や文化財が残されています。明るく穏やかな町松平には、たくさん思い出が詰まっています。

私は、松平地区の中でも豊松小学校区の石楠町に住んでいます。そこで、私が石楠町で生まれ育った思い出を2つ紹介したいと思います。1つ目は、伝統芸能の棒の手についてです。棒の手とは、愛知無形民俗文化財に登録されている奉納芸能で、太刀や棒、薙刀などの道具を使います。私は、小学校1年生の時から棒の手を始めました。初めは基本の形姿勢を1か月程教わります。当時の私には、その姿勢がつかなくて、やめたいと思ったこともありました。それでも、地域の方々が励ましてくださったたり、兄や姉へのあこがれがあったりして続けることができています。豊松小学校では、4年生になるとクラブ活動として棒の手を習うことができます。私たちの代は、私を含めて6人が棒の手クラブに入りました。ここでは、先に習っていて知っているという少しの優越感と、同い年の子たちと棒の手をやっている喜びがありました。小学校の学芸会や地域のお祭りにも一緒に出られて嬉し

かったです。

松平地区で有名なお祭り「天下祭」では、棒の手を奉納演技と自由演技で2回披露します。奉納演技では東照宮の手水所の横の広いところで披露します。一方、自由演技では、地域の方々、学校の友達など様々な人が見に来ていても緊張します。それでも、終わった後でたくさん拍手や、「頑張ったね、お疲れ様」と言ってもらえるのがとても嬉しくて、これからも頑張ろうと思えます。去年は、松平中学校の文化祭で棒の手の演技を披露しました。他のお祭りより何倍も緊張して、声も小さくなってしまいました。それでも、クラスメイトや、部活動の先輩方が「すごかったね」と言ってくれてとても嬉しかったです。ここからは受験生という立場になるので例年のようにできるかわかりませんが、高校に入っても棒の手を続けていきたいと思っています。

2つ目は、日常のあたたかさです。私の住む石楠町では、町民全員が知り合いと言っても過言ではありません。学校から帰ってきたときにすれ違つて「おかえり、楽しかった?」「休日の朝、歩いていると」「おはよう、どこまで行くの?」と、あたたかい声をかけてくれます。最近、防災学習で町民全員が集まった時、話し相手がいなくて立っていた私に、おばさま方が、「郁ちゃんの子孫?」「大きくなったね」と優しく声をかけてくれました。その後も、一緒に非常食を食べたり、学校の話やお互いの最近の話をしたりしました。私は、まだ顔と名前が一致しなかったり、町の中でもどこに住んでいるのかわからなかったりする人がいるので、祖父母や両親のように全員と話して仲良くなれるように頑張りたいです。

今、石楠町には、小中学生が私を含め12人しかいま

せん。それ以下の子どももおらず、これからは少子高齢化や過疎化がさらに進んでいくと思います。松平地区全体で見ても、きっとそれは変わらないと思います。松平地区には全22の自治区があります。そのどれもが「少子高齢化」を課題としてあげています。合併50周年を迎えた今年、松平・豊田市はさらに発展していくと思います。その発展の中で、簡単ではありませんがこれらの課題を改善していかなければなりません。徳川家発祥の地という古きよき伝統、東照宮や高月院などの名所・旧跡を守り引き継ぎつつ、さらなる発展をしていくために、私たちも行動していかなければなりません。そのためにも自分に何ができるかを考え、少しずつでも行動していけたらと思っています。

私は、この作文を通して、この松平地区、ひいては豊田市全体が、さらに発展し、住みよいまちになってほしいという思いを伝えたいと思いました。この作文では、私の自治区に対する率直な気持ちや、体験を書き、そこから自分が思ったこと、感じたことを通して松平のよさ、あたたかさを伝えられるように工夫しました。苦労したことは、松平の昔の姿を調べることで、昔の名称や、人口、地区分けなど、自分の知らないことが多く、インターネットを利用して調べのが大変でした。

松平中学校 3年 岡野 小春さん

